様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	10	学 校 名	田方農業高等学校	校 長 名	久保田　豊和

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当部署
ア	**農業教育の専門性の向上と基礎学力の定着をすすめる。**	・第４次アクションプラン達成率向上（昨年度比） ・農業クラブ全国大会（意見・プロジェクト発表）出場１部門以上 ・全国大会（農業鑑定競技）入賞７人以上	意見発表全国大会出場 農業鑑定競技入賞	A	・意見発表１部門出場 ・農業鑑定競技６人入賞 ・代表生徒の選考方法を見直す。 ・毎年１名以上の入賞を達成するための指導方法を確立する必要がある。 ・プロジェクト指導にかかわる時間の確保、環境作りが必要。	農業科
		・資格取得数が前年度実績以上 ・アグリマイスター制度の円滑な実施 ・課題研究の題目、実施計画の指導が充実したとする自己評価70%以上 ・日本農業技術検定３級合格者が 全学科 75%以上	教員 63.6%↓ **（矢印は前年比、以下同様）**	A	・課題研究からプロジェクト発表につなげるための環境整備、指導時間の確保。 ・毎年１名以上の入賞を達成するための指導方法を確立する必要がある。 ・長期的に活動しているプロジェクトについては、活動内容の見直し、方向性の検討が必要である。 ・日本農業技術検定３級合格者 68%	農業科
		・講師招請７回以上、高大連携２回 以上 ・講師招請、高大連携が効果的に活用できたとする自己評価 80%以上	静岡大学、農林技術研究所わさび科、静岡県自然環境保護課と講師招請、連携授業を実施した 教員 72.7%↓	B	・講師招聘 15 回、高大連携２回 ・生徒の進路意識に結び付けられる講師招請の計画と立案を行う。	農業科
		・家庭学習が習慣化したとする自己評価 60%以上	生徒 27.3%↓ 保護者 47.6%↓ 教員 26.5↓	C	・スタディサプリ等の教材をうまく活用したい。 ・家庭学習の定義を見直し、個々にあった学習活動を捉えていくことが必要である。 ・国語では定期的に小テストを実施、小テスト前の学習習慣はついているが、継続性をもたせる課題の工夫は必要。 ・数学では週末課題等を定期的に出してきたが、自ら進んで行う意識を付けていかなければならない。 ・地歴・公民科では課題等を定期的に提出させることによって、授業外の時間でまとめ	教務課 各教科

様式第３号

					させた。 ・理科では課題の提出率はほぼ 100%であり、一定の効果を上げている。今後は習慣化に結び付く継続的な課題を検討していく。	
		・基礎学力が定着したとする自己評価 70%以上	生徒 74.7%↑ 保護者 66.3%→ 教員 55.8%↑	C	・スタディサプリ到達度テストの結果は横ばいである。個に応じた指導も必要。 ・高校生のための学びの診断テスト（高２・９月）の結果では、家庭学習時間が平日休日ともに非常に少ない。また、高１の基礎内容定着率もいずれの国数英ともに低い。さらなる工夫が必要。 ・生徒が基礎学力を身に付ける意義を理解するしかけを考える必要がある。 ・国語では基礎学力の定着を可視化する試験の実施は必要である。 ・数学では課題テスト等でスタディサプリを定期的に活用した。その結果、学力の低下はなかった。 ・地歴・公民科では高校以前に得るべき知識を再確認させるよう授業や試験等において関連付けた。 ・理科では授業アンケートの分析と定期テストの結果から目標は達成できたとする。問題解決型の授業展開が有効であった。 ・英語では毎週行われる単語テストで70%以上の生徒が合格点を取った。	各教科 進路課 学年部
		・授業改善のための教科、学科内の研修および研究授業を実施　１回／年 ・ICT を活用した授業ができたとする自己評価 100% ・相互授業参観、年２回以上 ・生徒授業アンケート年２回の実施と授業への還元	教員 55.8% 教員 44.1%↑	B	・教科の研究授業を１回実施することで、授業力向上の１つのきっかけとなった。 ・ICT 環境が整い始めたので、各自が ICT を活用した授業研究を実施する必要がある。 ・ICT 活用を推進するための校内研修を各学期１回開催した。 ・授業アンケートの実施方法の周知と呼びかけの実施、相互授業参観ができる環境づくりには課題が残る。 ・農場教室で ICT 活用した授業を展開する場合、環境整備	教務課 研修課 農業科 各教科

様式第３号

					が必要。 ・数学では地区で行われる研究会で研修を行い授業改善することができた。ICT とアナログをうまく併用した授業を研究していきたい。 ・地歴・公民科では各教室に備えられたプロジェクターを最大限活用した。 ・理科では ICT を有効活用した授業を行うことができた。 ・保健の授業では、全教員が ICT を活用し、身近な話題や画像、動画を用いた視覚的な情報を踏まえた授業を行なった。	
イ	**自己指導能力及び社会性の育成**	・自発的・積極的に授業に参加できたとする生徒 80%以上 ・常に授業を大切にし、準備をして臨むことができたとする生徒 80%以上 ・授業で自分の意見や考えを持ち、他者の意見を認めることができたとする生徒が 90%以上	生徒 87.1%↓ 生徒 94.2%↓ 生徒 89.5%↓	B	・ICT の活用、グループワークの取組等、主体的に取り組む生徒が増えた。生徒は小中学校を経て慣れている。急激な変化に教員側が対応できていない現状がある。 ・始業前に着席し、落ち着いて授業に臨む姿勢を育てたい。 ・数学では授業の準備 1 分間前に完了することを目標とした。概ね目標達成できた。 ・体育の授業では、始業のチャイム前に準備を済ませ、ウォーミングアップに取り掛かることができた。 ・保健の授業では、話し合いの場面で積極的に取り組むことができていた。 ・理科ではグループワークを通し、目標を達成した。 ・数学ではペア学習を毎時間行なったが、一方、グループ内で自分の考えを表現する機会が少なかった ・地歴・公民科ではアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、生徒が積極的に授業に参加できた。	教務課 各教科

様式第３号

		・遅刻者数の平均が１日３人以下 ・校則やマナーを守れたと自覚する生徒 80%以上 ・登校指導、頭髪・服装等の指導に共感できる保護者 85%以上 ・交通ルールや乗車マナーを遵守し、安心して通学できていると感じる生徒 85%以上 ・生徒指導件数３件以下、生徒の交通事故５件以下	生徒 98.4%→ 保護者 85.6%↓ 生徒 98.6%→	B	・遅刻者数の平均は１日 1.95 人であった。2 年生の遅刻者が多く、来年度への課題である。 ・始業時前声掛け指導が遅刻者削減に効果を上げている。 ・校則やマナーについては概ね目標は達成できている。 ・携帯電話の使い方は引き続き粘り強く指導していく。 ・ギリギリ達成できたが、なぜ禁止しているかという根拠のようなものを示していく必要がある。 ・自転車で交通指導切符を切られた生徒が昨年の 3 倍近くまで増えており、一時停止左側通行の徹底を呼び掛けていく。 ・担任・副担の指導により、ほとんどの生徒が校則を守っている。	生徒課 学年部
		・自ら進んで挨拶のできる生徒の割合 80%	生徒 97.3%↑	B	・明るく大きな声で挨拶できる生徒を増やしたい。 ・概ね達成できているが、声をかけても返答がない生徒もいる。挨拶の大切さをもう少し伝えていきたい。	生徒課 学年部
ウ	**キャリア教育を根幹とした進路指導の充実**	・生徒の進路意識が高まったとする自己評価 80%以上	生徒 89.3%	A	・各学年に応じた進路活動を行なった。 ・学科教員の関わり方の明確化が必要。 ・農林水産業スマート技術活用人材育成事業の実施により進路意識向上につながった ・担任のきめ細かい進路相談面接が、生徒の進路意識を高めることに繋がっている。更に進路意識を高めるために面接時間の確保が課題。 ・自ら考え動く生徒を育てる教育活動を考えていきたい。	進路課 農業科 学年部
		・生徒が納得できる進路実現率 大学・短大 80%以上 専門学校 90%以上 就職 85%以上	大学・短大 96.5% 専門学校 95.5% 就職 92.8%	A	・生徒の実情に合った受験方法を選ぶことができた。 ・学年部と進路課が連携し、計画的に進路指導を行うことができた。 ・国立大学推薦・総合型選抜対策の指導を今一度整備する。	進路課 農業科 学年部

様式第３号

		・進学・就職の指導が十分行われていると感じる生徒 90%以上 ・進路に関する情報が提供され、きめ細かい指導が行われていると感じる保護者 80%以上	生徒 95.8%↑ 保護者 67.8%↓	B	・進路の手引きを改善した。 ・進路別ガイダンスを実施した。 ・面接や履歴書指導は３年部と連携して行なった。小論文は担当者によるきめ細かい指導ができた。 ・ＨＰを活用し情報を発信する。 ・受験先決定前の指導が大事である。 ・保護者に対しては現在どのような体制で個別指導が行われているか、何らかの形で細かく発信していく必要がある。 ・英語では進路テストに向けて動画を配信し、家庭学習を促した。 ・国語では授業内容の中に小論文や面接に直結するものが増えており、進路を意識しながら授業展開ができている。 ・数学では補習は充実して行うことができたが、個に対する進路別の指導は足りない。早いうちから進路に応じた指導が必要である ・地歴・公民科では実社会に合わせた資料や映像などを利用し、授業の内容のなかで進路を実感させること心掛けた。	進路課 各教科
エ	学校農業クラブ、生徒会、部活動の活性化と自主性の育成	・学校農業クラブ活動について積極的に関わったとする生徒 70%以上 ・学校行事等を積極的に行うとする生徒 90%以上	生徒 53.6% 生徒 96.5%	B	・農業クラブに興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている生徒がいる。今後の指導をしっかりと行って行きたい。 ・毎年高いレベルで高い意識で参加できている生徒が多い。	農業科 生徒課
		・県大会出場部活 60% ・部活動中のケガ・事故、昨年比減 ・部活動ガイドラインに則った活動計画の適正な遂行 100% ・テスト前部活動休止の徹底 ・部活動が活発で生徒に充実感をもたらしているとする保護者 85%以上	教員 85.2% 教員 85.3% 保護者 82.5%↓	B	・県大会出場部活動 60%はほぼ達成できた。 ・全国大会出場、東海大会出場など目覚ましい活躍があった。 ・日本スポーツ振興センターへの怪我の申請は 4 件で、前年比で 2 件増えた。 ・部活動終了時間が全体的に早まっていることはいい傾向である。 ・上級生と下級生の人間関係のトラブルに対する対応を改	生徒課 各部活動

様式第３号

					善していく。	
オ	共生・共育の定着と心を豊かにする教育の充実	・共生・共育の交流活動４回以上		A	・学校行事や主に農業科の授業で交流が進んでいる。今後は交流活動の内容を精査していく。４回以上実施できた。 ・交流学習活動以外の生徒会活動や施設利用等の諸活動の交流を深めていく。 ・更なる生徒主導の計画的交流授業の実施。	教務課 農業科
		・豊かな心や命を大切にする心が育っているとする保護者 90%以上	保護者 95.7%↓	A	・実習に対して責任持った、行動ができた。	農業科
		・図書館だよりの発行８回／年 ・図書貸し出し数３冊／人 ・授業などでの図書室活用、月平均５時限以上 ・朝読書の意義を理解し、有効に活用できたとする生徒 60%以上	生徒 87.1%	B	・図書委員が積極的に記事を書き、毎月発行することができた。貸し出し数は、2.2 冊／人だった。12 月より、紹介コーナーを新設した展示を始めたので、その成果に期待したい。 ・HR の ICT 環境が整備され、授業での活用は減っている。別の仕掛けを考えていきたい。 ・朝読書を有効に活動できている。クラスで若干の差はあるが、まじめに取り組んでいる。その後の SHR・授業にも落ち着いて参加することができている。小学校からの良い習慣が継続できている。	図書課 学年部
カ	安全・安心な教育環境の整備と美化に努める	・校内クラスターの発生０件 ・「学校の新しい生活様式」に基づいた活動ができたとする生徒 90%以上	生徒 97.3%↓	A	・マスクの着用、換気、健康観察が徹底できた。また、学年部の協力で黙食の徹底もできた。慣れにより予防対策が低下しないようにするのが課題である。	保健課 全職員
		・安全を優先した日常的な整理整頓・不要物等の廃棄・計画的な改修に努める。 ・施錠管理を徹底する。（外部からの盗難０件） ・校内美化活動３回／年 ・清潔な学習環境の保全ができたとする自己評価割合 80%以上	教員 88.3%	B	・計画的な改修と廃棄、修繕を継続する。 ・田農祭生徒の控室として農場教室を提供したが、盗難事件発生を防げなかった。科として対策を徹底したい。 ・校内美化活動は全校生徒参加のもと実施できた。各回それぞれ徹底するポイントを示すことが出来た。 ・施設設備老朽化のなか、清潔さを維持することができた。今後、教室内の整理整頓を課題に、備品の管理方法に	事務室 農業科 保健課 全職員

様式第３号

					ついて検討したい。	
		・特別支援体制、教育相談体制の円 滑な運営を図る。 ・通級指導への理解と連携の充実 ・教育相談便り 10 回／年		B	・保健課、学年部との連携を密接にはかり、カウンセリングに繋げることができた。 ・先年度に続き、通級を計画通りに行うことができ、次年度も続ける予定である。 ・教育相談便りは現在２回しか発行できておらず20%の達成率である。	相談室
		・校務系ファイルサーバーの適切な利用と管理を図る。 ・個人情報漏洩の事故０回		A	・校務系サーバーの移行、旧サーバーの廃止により情報セキュリティ対策がなされた。来年度は情報セキュリティ研修を導入したい	情報室
キ	地域・保護者との連携と教育情報の効果的な提供	・広報活動の更なる推進（学校案内のリニューアル、体験入学・公開授業・学校見学会等の内容検討、各種パンフレットの活用促進等） ・クラスにおける Google Classroom の活用 100% ・新しい学校ホームページの活用による情報発信(年間 100,000 アクセス)		B	・三養荘へ生産物を出荷したり、地域の野菜を使ったレトルトカレーを地域企業と開発した。 ・今後は学校の強みを明確にするとともに、時機を逸しない効果的な広報の在り方を職員全体で考えていく必要がある。 ・classroom の活用は授業では大幅に進んだがクラスにおいては 100%の活用はなされていない。活用の機会を増やす。 ・学校ホームページのリニューアルを行い、多くの閲覧者を得た。中学生一日体験入学の募集や学校行事などの情報発信など積極的な広報活動を行った。	総務課 情報室 担任
		・地元農家招聘２回 ・ＪＡや地元農家・企業との連携が促進されているとする自己評価割合７０%以上	教員 81.8%	A	・課題研究で、わさび農家との連携を継続してできている。 ・酪農関連に希望する生徒への有効的な指導内容の整理を行う。	農業科
		・地域防災訓練参加生徒 80 人以上、参加職員 25 人以上 ・伊豆田方分校との連携を強化		B	・目標の数値を達成できなかったが、感染症対策で全体訓練未実施の地域もあった。 ・分校と協力して校内訓練を実施できた。	総務課 全職員
ク	業務改善及び教職員研修の推進	・各種研修会への参加及び視察の回数３回／年	ICT 農業展示会千葉幕張メッセに参加	B	・研修案内を職員室前掲示板に掲示し、周知に努めた。 ・ICT 農業の展示会に参加し、学科内で報告、回覧を行った。	研修課 農業科

様式第３号

		・教科（学科）ごとに足並みがそろった評価ができたという自己評価70%以上	教員 82.4%	A	・R3 に評価についての研修を行っていたので、新課程へスムーズに移行できている感触はある。 ・研修等の充実により観点別評価を順調に行うことができた。しかし、主体的に学習に取り組む態度の評価方法が難しい。	研修課 教務課 全職員
		・部活動指導員、スポーツエキスパート、文化の匠、学習支援事業等の県事業が適切に活用できる。100%		A	・部活動指導員１名、スポーツエキスパート２名、文化の匠１名、学習支援員１名の計５名に依頼。専門性に富む指導で、生徒の成長につながった。	各部活動 管理職 事務室 全職員
		・勤務管理システムの正しい入力の徹底 ・週１回の定時退勤日（月曜日）の徹底 ・各部活動で設定している週１回以上の休業日の完全実施 ・部活動ガイドラインの適正な履行を進める。 ・夏季休暇の取得率100% ・1ヶ月あたりの時間外勤務 45 時間以内、年間 360 時間以内 ・定時退勤日 午後４時 45 分退勤励行 午後６時完全退勤 平常日 午後７時退勤励行 午後８時完全退勤		B	・勤務時間システムの入力については、100%徹底できた。 ・時間外 80 時間超過勤務者には、疲労蓄積度自己診断チェックを欠かさず行い、場合によっては個人面談により状況を把握した。引き続き、当事者とともに業務改善・整理に努め、また、産業医による面接指導に繋げるようにする。 ・週１回の部活動休業日の実施は、各部活動ほぼできていた。 ・夏季休暇の取得率は、76.4%と目標を大きく下回った。来年度は意識付けの時期をさらに早める。 ・定時退勤日や完全退勤時間について、昨年度より意識、行動ともに善処した。	各部活動 農業科 管理職 事務室 全職員
		・コンプライアンス研修毎月１回実施（職員会議内） ・教職員の不祥事０、体罰０、交通事故０		A	・目標は達成できた。特に、研修は十分な機会を提供できた。	